



改修前は見えなかった窓。真真中に木がはめてあるのも、また味。



冬、薪ストーブをつけておくと、次の日の朝まであたたかい。



「こんな家がいい」と、さやかさんが描いたスケッチ。イメージ通りの仕上がりに。



TYPE
所有物件

AKITAKATURNS FILE.

02

画用紙に描いた通りのリビングに ここから、人の交わる新しい“青”をつくらう

ここは、子どもの頃から大好きで毎月のように遊びに来ていたおじいちゃんの家です。今でも野球のボールで割ってしまった窓ガラスが残っています。妻と二人で引越してきたのは4年前。当時、妻が「こんな部屋がいいな」と描いた絵は、天井を抜き、堂々とした黒の梁と柱を眺められるリビングでした。この絵を実現したい！それが改修を決めた理由です。改修前、天井は冷蔵庫くらいの高さしかなく、床は壊れていました。手伝いに来てくれた友達と一緒に天井を抜くと、とても広くて、寒いかな…と躊躇しましたが、やはり見た目に勝るものなし！思い切って梁を露出させました。冬は、薪ストーブをたくと翌日までじんわりあたたまり、思ったよりも快適に過ごしています。床は無垢の材に。節目があるため比較的安い材ですが、模様も楽しめて気に入っています。

古い家ほど楽しみがありますね。その一つが、「あるものを使う」という工夫です。例えば、大きさの合わない建具がはめてあった壁と壁の間には、今回の改修で出た廃材を使って、小窓をつくりました。裏庭の様子が覚えて明かりも入ります。キッチン周りもカウンターも廃材を利用しています。新しすぎず、自然と部屋に馴染む雰囲気がいーいんです(笑)。改修の過程で今では手に入りにくい栗のような良い木材も見つかったので、これから別の場所を直す時に活用しようと企んでいます。作業を進めると、予期していなかった「これどうする？」という部分が必要出てきます。小さな隙間とか。そんな時に、自分達の好みをくみ取って、知恵を貸してくれる大工さんがいてくれたので心強かったですね。ここは、自宅でありながら、ゲストハウス「アオノイエ」としても活用しています。アオは集落の名前「青」。ノイエはドイツ語で「新しい」という意味。人が交流し、地域の入り口となるような「新しい青をつくらう」という想いを込めています。実際にうちで宿泊体験をした人が安芸高田市で空き家を購入したこともあります。古い家でも、充分心地よく暮らせる、そして自分の思い描いている暮らしが実現できるということを、これからもこの家を訪れる人に伝えられたら嬉しいですね。



name.

沖田 政幸 さん
さやか さん

data.

- 施工期間：約2週間(キッチン・ダイニング・リビングルームのみ)
- 経費：工事費120万円+薪ストーブ
- 築年数：131年



「まだ屋根裏にあったこの黒い梁と柱を見て、ここに住もうと決めました」と語る沖田さん夫妻。